



学校教育目標

学びあい
豊かな心で
未来をひらく生徒

初雁中の目指す姿

- ◇目指す学校像 なりたい自分にする学校
- ◇目指す生徒像 なりたい自分になる生徒
- ◇目指す教職員像 「なりたい」を教え導く教職員

2学期のスタートに思うこと

校長 矢部智史

これまでにない残暑の厳しい日が続いています。明後日から9月に入るというのに、35度以上の猛暑日が続いているというのは、50数年生きてきた私の記憶にはありません。また、熱中症アラートも頻繁に発令され、命の危険が高まっている環境下での生活を余儀なくされています。しかし、五感を研ぎ澄ませば、セミの鳴き声も6月下旬のニイニイゼミに始まり、アブラゼミ、ミンミンゼミと移り、最近はツクツクボウシの鳴き声も耳にするようになりました。夜にはコオロギを筆頭に、秋の虫たちの鳴き声が日増しに大きくなっています。少しずつではありますが、秋の気配が漂い始めていることを実感します。

さて、今日からいよいよ2学期が始まりました。生徒たちには「なりたい自分になる」ために、しっかりとした目標と高い志を持ち、ひたむきに努力し、主体的に考え行動する充実した学校生活を送ってほしいと願っています。また、2学期には合唱祭が予定されています。1学期の体育祭と同様、1つの目標に向かって切磋琢磨し、学級や学年、学校が大きく成長する行事にしたいと思います。合唱祭を成功させるための日々のプロセスと努力の積み重ねにより、ウェスタ川越の大ホールに素晴らしい歌声が響き渡るのがとても楽しみです。



ところで、9月1日は防災の日です。1923年(大正12年)9月1日に起こった関東大震災から、今年は100年の節目に当たります。災害といえば、東京電力福島第一原発の処理水の海洋放出が大きな話題となっていますが、地域の復興や仮設住宅の問題、風評被害など東日本大震災の爪痕は今もくっきりと残ったままです。先日、原発事故で長いこと帰還困難地域になっていた福島県の浪江町や双葉町を訪問する機会がありました。工事作業員以外の人影はほとんどなく、空き家状態となった家屋や田畑は荒れ果て、時間が止まっているような、悪夢でも見ているような錯覚に陥りました。一瞬で何もかもが奪われてしまった現実と恐怖、喪失感、怒り、悲しみ、絶望・・・そのような中で、目をそらず現実を直視し、立ち向かっている人の姿を見かけました。その方々は、将来にどのような希望と期待を持って生きているのだろうか? 「なりたい自分になる」ために、どのような目標を設定し、日々努力をされているのだろうか? 放射能の計測値が自然界に比べてかなり高い数値が未だ電光掲示板に示されていることに恐怖を感じつつ、私は足早にその場を立ち去ることしかできませんでした。大いに心を揺さぶられ、考えさせられる機会となりました。

2学期もこれまで以上に「安全・安心」な学校経営を目指し、教育活動を展開してまいります。状況によっては、急なメール配信や通知、ご理解ご協力をいただく場面等もあろうかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。